

# NEW DENTAL SALON

ネット配信広報誌 第3号 2017年 秋

## お知らせ

下都賀歯科医師会学術研修会

## トピック

歯科医師会と私

添野哲男 先生

業者からの耳より情報

岩瀬歯科商会

これからよろしく

(若手自己紹介)

石川泰博 先生

連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔 先生

会員投稿

連載 下都賀歯科医師会側面史

落合雅雄 先生

## 編集後記

編集作業中に原稿を依頼した添野哲男先生の訃報が届きました。最後の原稿を戴きました事に感謝申し上げるとともに、謹んで先生のご冥福をお祈り致します。

広報担当理事 前橋 潮

## 下都賀歯科医師会学術研修会

平成29年10月1日下都賀歯科医師会学術研修会がサンプラザにて開催された。今年「口腔がんの診断と治療および薬剤関連顎骨壊死の予防と治療の現状」という演題で自治医科大学医学部歯科口腔外科学講座主任教授の森良之先生にご講演いただいた。



開会宣言する山井副会長

初めに山井副会長の開会挨拶があり、その後、臼井会長から栃木市の口腔がん検診が順調に数を伸ばしているなどの話があり、学術委員手代木一人（司会）から森先生の略歴の紹介があった。森先生は日本歯科大学卒業後、



挨拶する臼井会長



講演する森先生



司会の手代木一人学術委員



会場の様子



コーヒーブレイク

東京医科歯科大学勤務の後、東京大学大学院口腔外科学講座の准教授を経て平成26年8月に自治医科大学医学部の主任教授として赴任されたそうだ。森先生は講演の初めに、自分は実は顎矯正の専門家であると断りを入れた後で口腔がんの講演を始められた。



閉会の挨拶する町田副会長

講演はがんの総論から次第に口腔がん各論に移り頭頸部がんの使用される各抗がん剤の評価をされた。中でも興味深かったのはオプジーボの薬理でオプジーボがT細胞のpd 1 レセプターにくっついてT細胞の力を発揮させるが自己免疫疾患状態になっ

てしまって副作用が広範なものになっ

てしまうとの話は私にとっては初めての知見であった。話は薬剤治療から外科手術に移り、再建手術の話では目を見張るような素晴らしい症例も見せられた。口腔がん類似疾患の写真で鑑別の要点を示し2週間治癒しないものはがんを疑うこと、硬結に注意すること、小さくなったように見えても安心しない事などの鑑別の注意を話して下さった。ここで、コーヒブレイクとなり後半は放置しているとがんになる病気として白板症、扁平苔癬の二つの前がん病変の説明が再開された。どちらも一回だけでなく経過を見るのが大事だとの事だった。口腔前がん病変も最近は口腔潜在性悪性疾患と呼ばれるようになったというのも初めての知見であった。次いで講演は二つ目のテーマ薬剤関連顎骨壊死の予防と治療に移った。なぜ顎骨に起こるのか、なぜBRONJが増加したかについても様々な角度から分析された。ビスフォスフォネートの休薬は積極的に支持する根拠に欠けるとの事で基本的には休薬をしないで、その前に菌性感染対策をしっかりと行って抜歯するべきだとの事であった。十分な口腔衛生と適切な予防処置で薬剤関連顎骨壊死は防げるとのまとめであった。数件の質疑応答があり、研修会は終わった。大変有用な研修会であった。

(記:前橋 潮)

# 歯科医師会と私

添野 哲男

春の頃、臼井会長よりデンタルサロン再刊のお話を聞かされ大変喜ばしい事と思われます。旧デンタルサロンは故須賀孜先生のお骨折りにより発行されたと記憶しています。私は昭和11年生れで同年代はもう3人程在るだけになってしまいました。その中でも私は一番の機械音痴だと思われ実はお恥ずかしい話パソコンもケイタイも（電話のみ）チン（電子レンジ）も洗濯機の使い方も出来ません。でも薪で飯タキ位は出来ます。2014年10月獨協医大で検査したところ心臓大動脈瘤(7.5cm)があるのが判りました。大きさが限界に達しているのでいつ破裂してもおかしくないと宣告されました。妻と恵一は心配していますが、高齢でもあり手術をしないことを選択しました。今迄 神や仏様に生かされて来た事に、家族に、感謝しながら人生を送っています。

人生限有

釣無極限

哲男



秋田県 湯沢市 三途川溪谷にて

添野哲男先生は平成29年9月24日に亡くなられました。これが御遺稿になってしまったのが誠に残念です。先生が送ってこられた写真は死期を悟っておられたかのようなものとなってしまいました。

# 業者からの耳より情報



岩瀬歯科商会 佐々木 亮太

今回はカムログインプラントのアルタデント社より提供させて頂いておりますコンピューターガイドットサージェリー『smop』について案内をさせて頂ければと思います。

ご存知の方も多いかと思いますが、『インプラントのコンピューターシミュレーション』とは、CTデータをシミュレーションソフトに取り込み、3次元化された顎骨画像上でインプラント埋入位置を精密に決定すること。

そしてもう1つ『ガイドットサージェリー』とは、シミュレーションされた埋入位置に、ドリルのガイド孔を設けたサージカルステントを口腔内に装着し、このガイド孔を通して埋入の処置を行うこと。

これらのアドバンテージとして、

- ・ 外科補綴計画どおりのインプラント治療提供 ➔ 患者評価向上とリスク回避
- ・ 勘に頼らない、より安全なイン

プラント治療の提供 ➔ リスク回避と治療均質化

- ・ OPE時間の短縮 ➔ ティッシュマネジメントや縫合に余裕
  - ・ グラフトレス、フラップレスなど低侵襲な治療の提供 ➔ 他院との差別化
- などが挙げられます。

従来のサージカルガイド作製システムの課題として

- ・ ソフトウェアの導入コスト
  - ・ ガイドの適合チェック
  - ・ ガイドの使い勝手の悪さ
  - ・ ソフトオペレーションの習熟
  - ・ 症例／補綴相談のコミュニケーション
  - ・ プランニング作業の時間
- 等が挙げられるかと思っています。

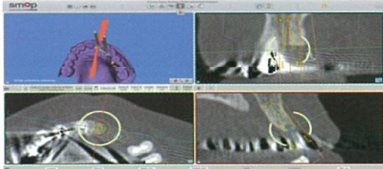
この課題の解決策として、コンピュータープランニング&ガイドットサージェリーシステム『Smop』をご提案致します。基本的なフローは下の図でご紹介いたします。

## Dental Clinic

① DICOM データのアップロード  
& 模型の送付



④ プランニング・確定



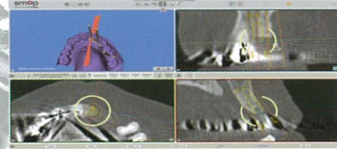
⑦ 送付

## 3D Planning Center

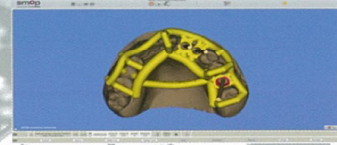
② 模型スキャン & バーチャルワックスアップ



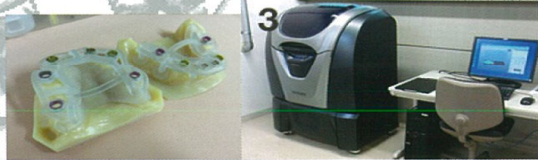
③ モデルマッチング & 仮置き



⑤ サージカルガイドのデザイン



⑥ 3D プリンティング & 調整



以上の事から、非常にメリットがあるシステムかと思えます。ご興味ございましたら弊社担当営業までお問い合わせ頂けますよう、よろしくお願い致します。

詳しいお問い合わせ先  
株式会社岩瀬歯科商会 宇都宮支店  
TEL 028-613-5858

# これからよろしく

石川 泰博



初めまして石川泰博です。

私は栃木生まれ栃木育ち、根っからの栃木っ子です。幼少の頃より活発な方でしたが、少々やんちゃな気質な面もあった自分は学生時代から周囲の方々に色々御迷惑をかけてしまう事が度々あり深く反省しています。そんな私も母校の日本歯科大学で無事研修を修了出来たのも、当時指導に当たって下さった先生方のお蔭と感謝しています。

今回の自己紹介ですが、内容は趣味の事でも良いとお話して、そこで新たに趣味の一つに加えてみようとしてトライ中のゴルフについて書いてみようと思います。上手くなれば、楽しくなり、自然と趣味の一つとなる訳ですが、当たり前のことですが、このゴルフ、見るのと実際にやって

みるのとでは非常に大きなギャップがあり、本当に難しいスポーツです。というのは正確な「再現性」が要求される競技ですので、動作の再現性が最も大事と思われるからです。その為には何より基本に忠実なことが上達の近道になります。そこでゴルフの基本中の基本がグリップ（3通りあります）ゴルフのクラブの握り方になりますが、どれが自分に合った方法なのか今だに分からないといった状態です。それから構え方、アドレスも同様に構築中の段階ですが、このグリップとアドレスでスイングの良し悪しが8割決まると言われる程重要な基本なのでこれからじっくり基礎造りをしていきたいと思っています。そこで実はより早い上達をという事で今春からゴルフスクールに通い始めたのですが、上手くなるどころか難しさは増すばかりというのが正直な感想です。下都賀歯科医師会へのゴルフ同好会「3S」クラブには私も参加させて頂いていますが、コンペ時入賞された先生がスピーチされたの

ですが、「上位入賞されている先生方は常に練習している。毎日努力、練習する事の大切さ」という主旨を述べていらっしゃいましたが、これはゴルフに限らず何事に於いても言える重要なお話だと思いました。「ゴルフ」も専門の分野でも、この「姿勢」で取り組んでいけたらと思いま

す。まだまだゴルフ同様未熟な私ですが、歯科医師会の先生方の御指導を受けながら頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。





# 連載 紀行

## 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

### フランス紀行 関根 潔

平成25年8月20日午後6時からフランスへの旅が始まった。ANAのビジネスは各自ボックス席で快適で、13時間も乗っていた割にはとても良く眠れた。パリは夜9時すぎまで明るく、ホテルから凱旋門までは歩いて行け、300段の螺旋階段で屋上に登



凱旋門内部の螺旋階段

り、パリの街を眺めた。フランスは朝晩が寒く、日中が暑かった。観光はすべてバス移動で、とにかく城、城、城の連続だったがすべてに感動した。2泊した大富豪所有の城を改造したホテルがまた素晴らしかった。我々夫妻の一番の目的だったモン



2泊した城を改造したホテル

サン・ミッシェルは、708年、ノルマンディ大司教が3度に及ぶ大天使ミカエル（ミッシェル）のお告げを受け「この島の頂上に礼拝堂を造るべし」に従って造った修



モンサン・ミッシェル

道院だが、10世紀にはベネディクト教会に、11世紀から500年かけて増改築、14世紀には英国との百年戦争で城砦や流刑地にもなり、1870年に島をつなぐ道路ができて満潮時にも往来できるようになったそうだ。

階段と坂道ばかりで見学が大変だった。

名物の気泡の沢山入った特大オムレツや羊料理はあまり我々の口には合わなかった。

3日目には天気が悪くずれたが、バスで港町のオンフルールへ移動、この市場とみやげ店が楽しかった。

午後は、あのジャンヌ・ダルクの処刑地のルーアンへ、ノートルダム寺院、大時計通り、見る物全てが感動物だった。昼は有名なグレース・ケリーやソフィア・ローレンなどの訪れたレストランで食事を。翌日はモネの家と庭園の見学、昼のレストランでのエスカルゴがうまかった。

午後はヴェルサイユ宮殿へ、どこの国でも似たり寄ったりで、権力者が人民から税金を搾り取って、好きな事を遣り放題で、人を平気で殺したりしている事が良くわかる。

夜はパリに戻り、自由行動という事で、翌日は各自世界遺産などの



エッフェル塔の前の私

見学。（詳しく紹介できないのが残念です。）ここで筆を置いたらただの紀行文になってしまうので、この辺でちょっとしたエピソードを…

旅は道連れ、たまたまレストランの席で隣同士になった親子が母も20代前半の娘も同じ小学校の教師で、家内も中学校の教師だったので自然と話が弾み親しくなり、翌朝のバス移動で我々がすでに乗り込んで待機中に、その母親が大荷物をかかえながらバスに乗ろうとしているのだが、足が不自由で松葉杖なので困っていたので自分が助けてあげたが、どうやら娘さん

が寝坊したらしく後から走って来たのだった。また、モンサン・ミッシェルからの帰りにも雨でリュックの奥から傘が取り出せないでいる時に私が傘をかかげてあげたり、今度はこちらが倅から頼まれていた靴の店がわからず困っていたら娘さんがレストランの店員に聞いて場所を知らせてくれたりで、自然に旅の最後までごいっしょする事になったのだ。ここで私が何を云いたいのかと云うと、この娘さんの類稀な美貌だ。

入国審査時の待ち時間の長い列を作っている際に、各国の旅行者達はその横を通り過ぎる時に誰もがこの娘さんを繁々と見て通過するほど目立っていたのだ。身長が比較的高く、顔が小さく彫りが深く、八頭身で長い黒髪で色白で、美人の条件がすべて揃っていたのです。とにかく今回の旅行で最も印象に残ったのは各世界遺産ではなく、この娘さんだったのです。（私はただの助平親父か？）

後で記念の写真をプリントアウトする為にモニターをチェックしていたらなんと、家内にあの娘の写っていたコマだけがすべて消されていました。

…次号へ続く

## 私の歯科履歴書 落合雅雄

### 法歯学を学んで法医談話会・警察医

口腔外科は、宇都宮の国立病院と足利の日赤病院に設けられていたが独協医大も自治医大も未だ無かった時代でも、外科的処置を必要とする患者は居たので、一般の外科病院に呼ばれて処置する例も時々あった。

交通事故で、バイク同士が正面衝突した症例では、相手の眉毛が上顎前歯部唇側の裂傷の中に紛れ込んでいたので、衝突時における相互の体位が想像できて、後の法的判定の根拠となることが分かり、法医学の知識の必要性を実感させられた。丁度その頃、口外の先輩である鈴木和男先生が、本邦で初めて開設されたばかりの法歯学研究室の門を叩いた。発展途上の教室で実験器具も揃っていないので、私達に与えられた研究の仕事は、九段の科学警察研究所(科警研)で池本卯典先生(血液型の第一人者、



後に自治医大教授、現日本獣医大学長)に指導を頂いた。昭和48年(1973)に法歯学第1号の博士の学位記を授与され、鈴木教授の最高の理解者・三笠宮様邸にお伺いし報告した。教室では、宮様リクエストの食事処で鈴木教授の招待による宮様を囲む食事会(私的な)が時折催され、教室員の余興を楽しまれた宮様も天に戻られた。

昭和55年(1980)11月20日川治温泉プリンスホテルが全焼し宿泊客の47名が犠牲になり、宇都宮の岡田一郎先生(慶大法医で医学博士取

得、県内において早くから警察医として遺体の歯科的検案、鑑定を手掛けてこられた。口外の尊敬する先輩である)のもと鬼怒川温泉の遺体安置所(お寺)で身元確認作業を行った。犠牲者は皆老人会々員だったので義歯装着者が多く、義歯床は舌側がほとんど損なわれることがなかった。それ以来私は義歯床舌側に患者の姓を埋め込み、今日まで実行している。犠牲者全員身元確認ができた。

川治から5年後の昭和60年8月12日(1985)御巣鷹山に墜落した日航ジャンボ機の犠牲者は、年内に全員の身元確認ができたが、45%に相当する233名について歯科的所見が有用だった。私も盆休暇を返上して前橋の大国勉君(同級生で同じ法歯学で博士号を取得、身元確認班の長として活躍、最大の功労者であった)をサポートすべく8月15、16、17日の3日間軽井沢から藤岡市体育館に通い、東歯大法歯学教室の一員として遺体を看続けた。年内一杯東歯大法歯学の教室員は身元確認作業を続けた。

史上最大の航空機事故が関東で発生し、その遺体の残した歯牙のほ



とんどが自己主張をした。それに私達歯科医師は100%答えなければという想いで、作業に従事していた。個人識別における歯牙の有用性を説き続けて来た鈴木教授の創った法歯学が、これを機に確固たる地位を得て、全国的に警察のパートナーとして警察協力会が設立され、更に大規模災害における歯科の役割がより多岐に亘って研究される法歯科医学会が発足、日歯会ではこれより早く全国法歯科協議会によって災害に対応する歯科医師会の機能する組織等についての検討がなされている。

6年前に発生した東日本大震災では、全国の歯科医師会の警察協力医会の先生方が登録スタンバイし、本県でも田村専務理事をはじめ有志の先生方が現地で身元確認作業に従事した。

県警察医第1号の黒須周作先生(宇都宮)と時の県警鑑識課長野島貞栄氏(後に 警察庁科学捜査研究所所長、医学博士)によって昭和37年(1962)法医学のスタディクラブである栃木県法医談話会が創立され、県内の法医学に関心のある医師、歯科医師が会員で、警察官も聴講自由のオープンな会は全国でも最長寿の研修会である。発足当時は年2回、その後は年1回の開催で、今年で研修会は54回目の開催となる。日進月歩する法医学の情報の研修と会員のプレゼンするケーススタディが行われた。この会に参加された歯科医が、後に設立された警察協力医会会員になって、大規模災害の発生にも対応できるだけの組織に成長されたことは同慶の至りである。この会の副会長は長らく岡田一郎先生が務められ、その後私が引き継いだ。高齢となったので、昨年石川秀忠先生が歯科代表として副会長を務めている。

10年後昭和47年(1972)に栃木県警察医会が設立され、後に岡田先生と私が歯科から警察医として理事を務めた。会員が警察医のみで行政との連携が強く、主として検死検案や留置人に関する法令や取扱

いなどについて研修が実施される会である。

身元確認の決め手はDNA万能の時代となった。しかし生体、遺体を問わず形態の観察で、固有の歯牙による個人識別は、身元確認の決め手に充分なり得る。わが国の法歯学を創成された鈴木和男先生は、人間について「億単位の精子から選ばれて生を受けた人は、それだけですべてエリートであって等しく平等であるから平等に接することは医療人の務めである」と説いた。



血脇守之助

東歯大の2代目校長血脇守之助先生は、「歯科医師たるまえに人間たれ」と説き、入学と同時にモットーとして叩き込まれたが、凡庸の身では仲々分別が付かず、先の見えて来た年齢になって漸く分かってきたように思う。先生は野口英世の並外れた才能を守り育てるため、高山歯科学院(東歯の前身)の学僕に任用。野口は独学で医師免許を取得。先生は生涯後援を続けた。

次号に続く